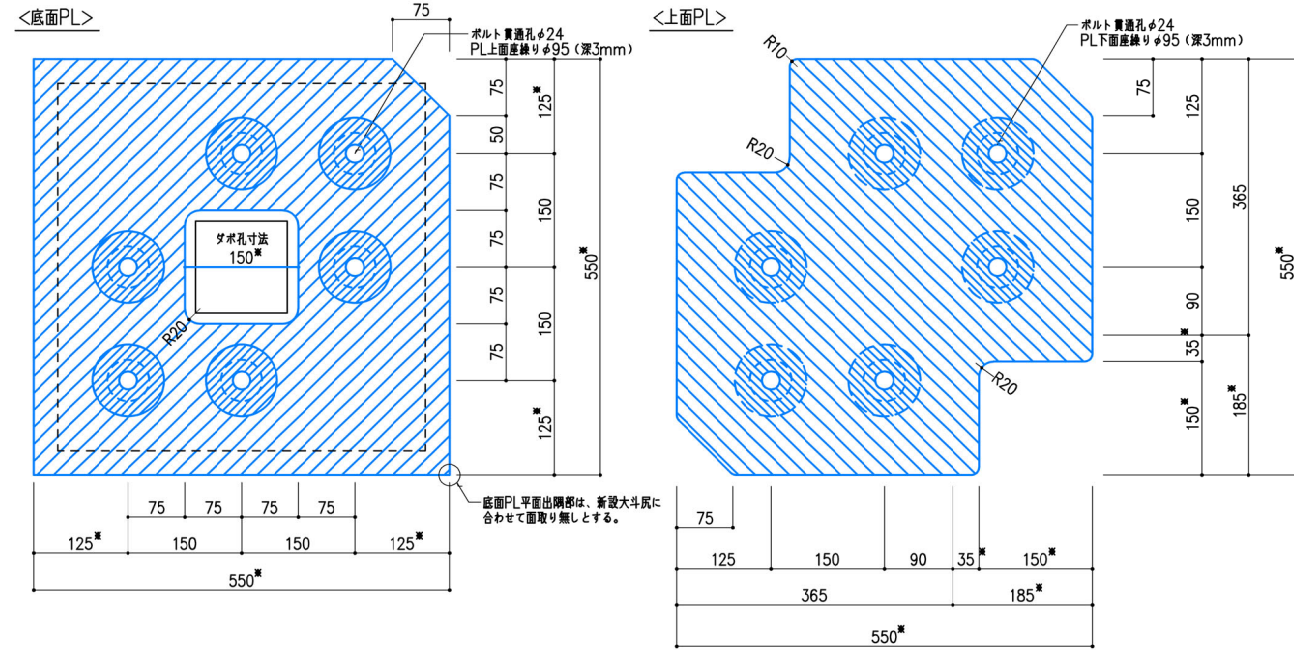


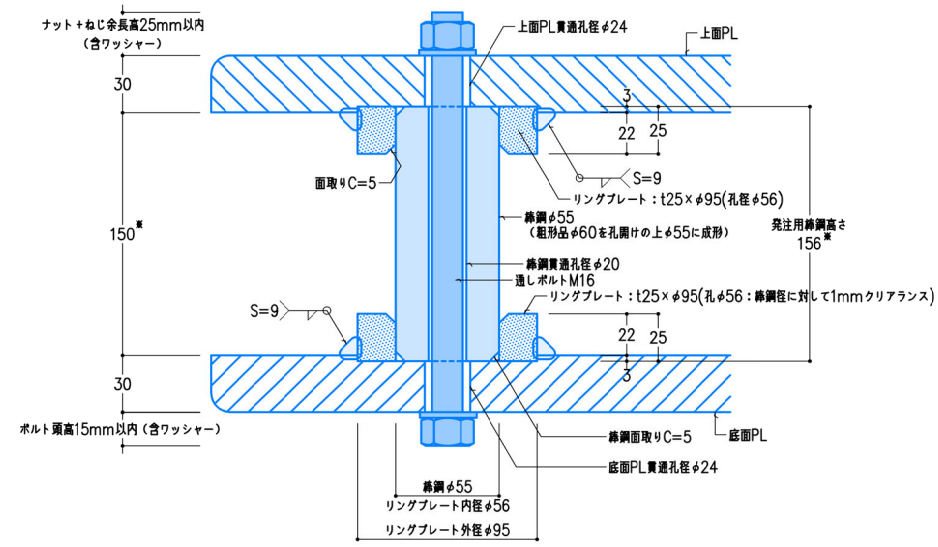
初重隅大斗補強金物図 S=1:10 (A3)

- 特記外 1. 補強金物の使用材質は、 $\alpha + \beta$ 型チタン合金Ti-6Al-4V (0.2%歪時耐力825MPa相当, ヤング係数110GPa相当) とする。ボルト・座金及びナットも同等とする。
 2. 底面PLのダボ孔寸法等の詳細ディテールは、ジャッキアップを施し既存大斗を除去した後に決定する。金物製作は、詳細ディテール決定後に着手すること。
 3. ※印寸法は発注用の寸法であり、製作においては変動する可能性がある。
 4. 補強金物の表面には結露防止剤（菊水化学工業ケツロニン同等）を塗布すること。ただし、底面プレート下側および上面プレート上側の木材接触面については構造性能に異なるため非塗装とする。そのためにマスキング等を行った上で塗布すること。また、下地処理は通常の措置に加え、厳密着下塗層を挿入すること。

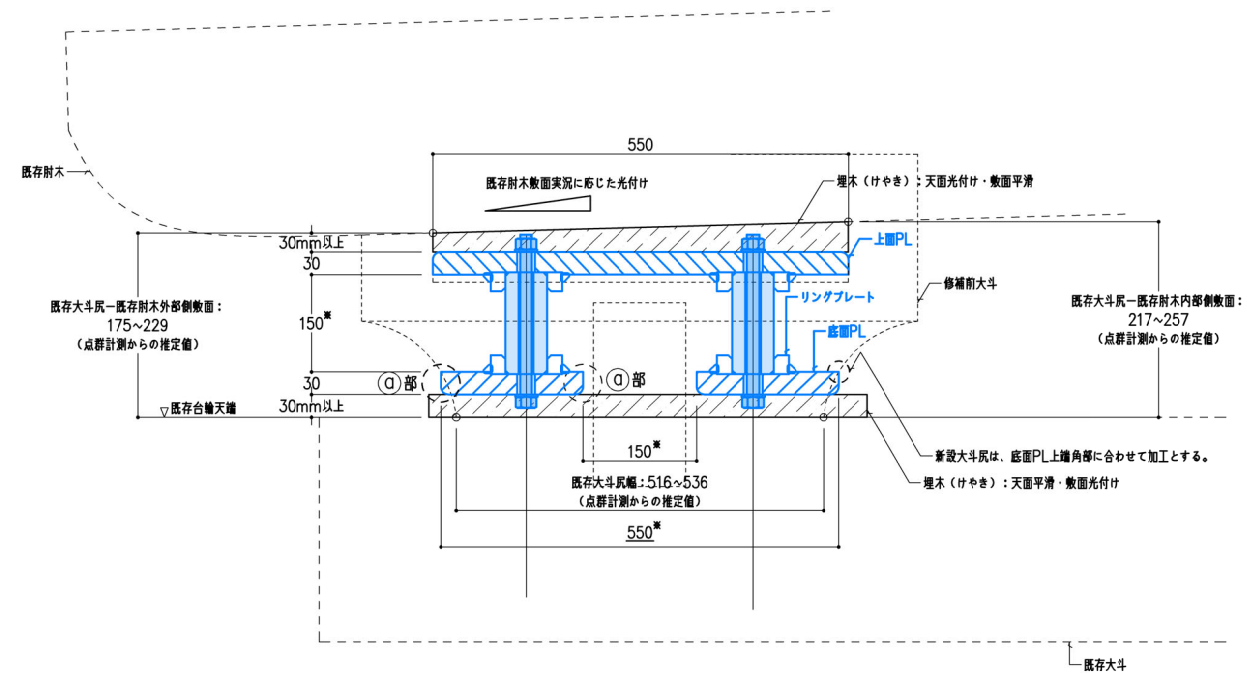


棒鋼端部-上面・底面PL取合い要領 S=1:4 (A3)

- 特記外 1. 補強金物の使用材質は、 $\alpha + \beta$ 型チタン合金Ti-6Al-4V (0.2%歪時耐力825MPa相当, ヤング係数110GPa相当) とする。ボルト・座金及びナットも同等とする。
 2. 棒鋼のボルト貫通孔を加工後 $\phi 55$ に成形し、孔位置実測の上で上面・底面PLのボルト貫通孔を設ける場合、貫通孔径は $\phi 20$ とすることを可とする。
 3. ※印寸法は発注用の寸法であり、製作においては変動する可能性がある。
 4. 補強金物の表面には結露防止剤（菊水化学工業ケツロニン同等）を塗布すること。ただし、底面プレート下側および上面プレート上側の木材接触面については構造性能に異なるため非塗装とする。そのためにマスキング等を行った上で塗布すること。また、下地処理は通常の措置に加え、厳密着下塗層を挿入すること。



<断面図>



①部詳細

底面PL 面取り要領 S=1:4 (A3)

- 特記外 1. 上面PLについても同様に、古材側のみ厚み方向の面取りを行うこと。